

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.133

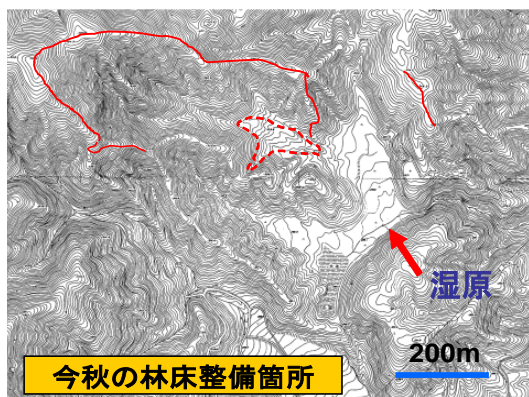
2010/12/20

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 今秋は林床整備中心の保全活動



10/11/28



夏場の観察コース沿いの草刈りに引き続き、秋からは同じく観察コース沿いの林床整備作業を集中的に実施しました。何せ 40 年間手を入れていない林床である。枯死木・倒木・曲がり木等々で無秩序な林床を整備している。整備が終了した林床は、スカッとしてすがすがしい。しかし、際限がない作業で今はコースの左右広くて 10m 前後の幅で行っている。もっと広げればと思いつつも限られた陣容と日数でこれが精一杯である。草刈りと異なりこの作業が直接植生分布に影響することはないが、日頃の観察や安全面には寄与するはずである。ルート沿いは線状の作業だが、四季の森については全面的に整備を行った。この作業でも薪炭林としての利用を放棄して久しいため高木で枯死しているもののうちコナラ・ミズナラの占める割合が多いことを再認識させられた。「市民のための学習も兼ねた森」であることを考えると、自然の遷移に任せるゾーンがあってもいいが、かつての薪炭林として利用した時期の皆伐も考えないと二次林の更新は難しい。「ナラ枯れ」現象もやっと今になって高齢木が多いことが原因と言われ出したが、そんなことは薪炭林に関わっていた人にとっては改めて言われるまでもないことであり、この森でも本気で更新を考えるゾーンを早期に設定すべきであろう。既に時期遅しの感が無いでもないが・・・。





10年ぶりに改修された木柵

1998 年から一般公開に向けて整備が始まった「山門水源の森」にコース沿いに木柵や階段が設置されたのは 1999 年のことでした。以来 10 年余が経過し、あちこちで破損しロープ等で補修を繰り返してきました。今年国の緊急補助事業として一部が改修されました。改修が全コースの 1/3 程度というのが心残りですが昨今の経済情勢からすればやむを得ないことでしょう。いつの日にか全面改修がなされればと期待したいものです。

### 各種播種・植え替え作業

昨年に引き続き今年も希少種の増殖を目指して播種や植え替え作業を行いました。



ミヤコアザミ



クルマバグマ



アケボノソウ



ササユリの植え替え



植え替え多球根



堆積泥の除去作業(10/12/16)



水生生物の這い跡(10/12/19)

このうちササユリは 2005 年 11 月に楽舎で播種したものです。今春には複数の葉を出したのもあり通常播種から 7 年で開花すると言われており、いつ開花するかの実験でもあります。開花が待たれます。

復元した北部湿原内の水域にはトンボをはじめとする多くの水生生物が生息しています。この水域への土砂流入を極力減らすため昨年「沈砂池」を創設したことは既報のとおりです。この効果はは抜群ですが、山地から流入する濁り水中の微細粒子は沈砂池を越えて

湿原内に運ばれます。このため水生生物の生息している水域の水深が 1 年でかなり浅くなります。放置すると干上がり状態になってしまい、水生生物が生息できなくなります。これを避けるため堆積した泥を除去する作業も行いました。その結果多くの這い跡が観られるようになりました。この作業も際限が無い作業となります。

今年は中央湿原の復元から始まりましたが、森の整備が一段と進んだ 1 年でした。かつての森では生活の中のサイクルとして意識することなく多様な生物が保全されてきたわけですが、現在は生活とは切り離れたところで同じ効果を得ようとしています。そこには「無理」が同居しています。この「無理」を乗り越えるには、「森の生物多様性」を保全することの意義に共感して活動してもらえ人を一人でも多くのしてゆく必要があります。日頃のガイド活動もその一環です。今年もこの活動を通じて新しい仲間が増えたことはうれしい出来事でした。

良い新年をお迎え下さい



干上がり防止作業の成果(10/12/19)